

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300126
法人名	有限会社ケアサポートさくら
事業所名	グループホームしおり（風）
所在地	愛媛県宇和島市丸穂甲937-15
自己評価作成日	平成26年10月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>広々した庭と宇和島を一望できる景色、ホールがあり、自由に散策できる。小学校や保育園児の声や姿が見え、交流が図れる。デッキでつないだ隣接ホームとの交流ができる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所建物1階に作っている地域交流スペースにて、今年から認知症カフェ「笑みちゃんカフェ」を始められる。はじめは「長寿茶屋」等として、併設グループホーム合同でお茶を楽しむ機会として取り組んでいたが、運営推進会議時、高齢者福祉課担当者から「趣旨が認知症カフェとマッチしているので取り組んでみてはどうか」と助言があり、利用者がネーミングしてくれてカフェ活動となった経緯がある。現在は、ご家族や民生委員の方等も参加されている。</p> <p>庭は芝生で広く取っており、一角には畑が整備されている。犬や猫が好きな方が多く、近所の方が犬の散歩中に寄ってきて利用者が犬と遊ぶ機会がある。又、飼い猫が利用者や職員の行くところに付いて来て癒してくれているようだ。</p> <p>ご家族からは、看取り支援のニーズが多く、事業所2階ユニットは、重度化や看取り支援するための場所としている。現在は、車いすを使用する方や食事時の見守りが特に必要な方が多い。居室の並びに「看取りの部屋」が整備されており、ご家族も泊まることができるよう用意されている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている （参考項目：11,12）	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームしおり

(ユニット名) 風

記入者(管理者)
氏名 渡部 和美

評価完了日 平成26年 10月 15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 年度当初に介護理念を職員で相談して作成し、常にリビングに掲示して意識できている。 職員の異動があり、9月以降十分な話し合いが不足しているが、理念に沿って実践できるよう努めている。	
			(外部評価) 事業所理念「共に生きる」と毛筆で書いた額を玄関に掛けており、又、パンフレットに載せたり、今年から事業所独自で作成している便りの題名としても用いられている。併設する系列グループホームでのこれまでの経験をもとにして事業所には、ボランティア等の受け入れ時、皆で楽しめるような「地域交流スペース」を設け、「いつか出ないといけないのでは」という利用者ご家族の不安解消へ向けて「重度化した利用者の居場所も作りたい」と開設された。ユニットそれぞれに職員で話し合いユニット理念をつくっており、「支え合う 心を大切に一致団結」「皆が一番」と各事務室に掲示されていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会に入り、地域の行事ごとには積極的に参加するようにしている。 広報誌を回覧板で回して、ホームの行事のご案内や認知症のことを知ってもらえる様一言添えたりしている。 高齢者サロンや保育園、小学校との交流は定期的であり、地域との交流は徐々に増えている。	
			(外部評価) 近所にある保育園からは、「ミュージックケア」として園児が来てくれており、一緒にトライアングルやベルを鳴らして合奏したり、一緒に歌ったり、手と手をタッチしてふれ合いながら過ごす時間となっている。又、畑で育てたサツマイモ掘りの際には、一緒に楽しまれている。運営推進会議を行うことでメンバーの方と関係が深まっており、事業所が取り組む「感謝祭」時にお手伝いしてくださる等、会議を通じて人とのつながりができているようだ。市図書館員の方が、利用者におすすめの高齢者向けの本や紙芝居を選んでくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 毎月、見学・相談日を設けている。 しおりだよりの中で「介護しっとこ」と題して、認知症について情報提供しており、興味を示してくださる方もいる。 利用者の得意な「お餅を丸める」ことも、秋祭りの餅つきで協力予定である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、事業所の取組みやサービス状況を報告するとともに、課題や今後の取組みについて意見交換し、サービス向上に活かしている。 小学校や保育園、地区消防団の参加が得られるようになった。</p> <p>(外部評価) 会議は併設グループホームと合同で開催されており、事業所からは、現在ケアに困っていること等を相談する場にもなっている。この一年では、消防団の方や小学校長等、新たな参加者もあった。会議参加者にアンケートを取り、会議の感想や、「事業所に対しての希望、気になること」「利用者のことで心配なこと」等を聞いた際には、「勉強会や参加できることがあれば声を掛けてほしい」等の声もあった。他事業所の運営推進会議に参加した際に、スライドショーでの活動報告を見て、分かりやすいと感じ事業所でも採り入れておられる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市の研修や会議には参加している。 担当職員との連絡や連携は取り合っている。 運営推進会議では貴重な意見をいただいている。</p> <p>(外部評価) 事業所建物1階に作っている地域交流スペースにて、今年から認知症カフェ「笑みちゃんカフェ」を始めておられる。はじめは「長寿茶屋」等として、併設グループホーム合同でお茶を楽しむ機会として取り組んでいたが、運営推進会議時、高齢者福祉課担当者から「趣旨が認知症カフェとマッチしているので取り組んでみてはどうか」と助言があり、利用者がネーミングしてくれてカフェ活動となった経緯がある。現在は、ご家族や民生委員の方等も参加されている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束については理解しているが、命を守るため、また転倒の恐れがある人にやむを得ず柵をしている。 日中、施設の施錠はしていない。</p> <p>(外部評価) 事業所の玄関は開放しており、利用者は職員と畑や庭に出る等している様子が見られた。併設グループホームと合同で研修する機会を作っており、職員は少なくとも年1回は身体拘束について勉強するようになってきている。現在、2階ユニットには、歩行が不安定でベッドからの転落やずれ落ちが心配な利用者があり、ベッド柵を付け対処されている。利用者によっては床に布団を敷き対応したこともあったが、そのことが転倒事故につながるようなこともあった。</p>	<p>グループホームは利用者の自由で安心な暮らしへの支援を目指すことが特長でもある。身体拘束することでの弊害も合わせて考えながら、チームでケアのアイディアや意見等を出し合い、みなで話し合っ、身体拘束をしないケアの実践に向け考え続けていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 一人では対応せず、虐待に繋がらないよう考慮している。決して否定しない声かけをしているが、要望の強い人に対しては本人と相談して折り合いをつけるなど、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を受け理解している。必要になられた時には対応できる準備ができています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分な説明と理解に努め、双方納得して入所いただけるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご意見箱を設置している。家族からの意見は運営に反映させており、家族への文書や運営推進会議の中で報告している。 (外部評価) 事業所独自で担当職員が便りを作っており、利用者の活動の写真や「介護しっとこ！」欄を設けて、「食事が進みにくくなった時の原因や対応」等について、事業所の取り組み例を挙げ「お茶碗の色を工夫する」等、具体的に紹介されている。運営推進会議後に家族会の時間を設けて、ご家族へ相談等したこともあったが、「家族会はいらないのでは」という感想のようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会やミーティングで発言の場を設け、すぐに反映させている。 夜間など、施設長と1対1で話しやすい環境になるので、意見を述べやすい。	
			(外部評価) 管理者は「サービスの均等化」「チームケア」について職員によく話しており、「利用者全員に楽しいと言ってもらえるよう取り組みたい」と話しておられた。事業所には「行事、防災、リスク・美化、広報・給食」の委員会活動があり、職員は責任を持って活動をされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 時間外手当や会議手当、リフレッシュ休暇等設けて、働きやすい環境になっている。 体調が悪い時にはすぐに休めるよう、考慮してある。 また、本人の意向に合わせて、自信を持って働けるよう努めている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修には積極的に参加できるよう、機会の確保をしている。 また新任者には新任者研修が受けれるよう手配している。 委員会活動により、職員一人一人の活躍の場がある。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近隣のグループホームの行事や運営推進会議には相互に参加したり、男子会には他ホームの男性利用者に参加してもらって、交流を図っている。 協会の相互研修にも参加し、サービスの向上に努めるとともに交流が始まっている。 市のグループホーム交流会にも参加している。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前にカンファレンスを開き、職員間で情報を共有している。 また入所後1～2週間は安心して暮らしていただけるよう、重点的に声かけや思い等を聞くよう努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前面接時や契約時に、家族の要望や困っていることに耳を傾け、何でも話していただけるようなコミュニケーションづくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメント時に確認した内容で、今必要とされる支援について、家族や本人と話し合い、適切なサービスが利用できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者9名と職員の生活に馴染みができてきて、それぞれがその生活をしているという気持ちが強くなってきている。また信頼関係も築け、積極的に家事をされるようになってきている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の状態の変化や要望など家族へ報告、相談し、今後のことを決めるようにしている。 職員間で情報を共有し、家族が本人にとって一番大事な存在であることを常に考えている。 面会時には家族にゆっくり部屋で過ごしてもらったり、誕生会を一緒にお祝いしてもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家を見に行ったり、信仰している神社に定期的にお参りしたり、馴染みの理容室を継続して利用している。 知人の面会もある。 病院受診や外食も、家族の協力で継続できているため、その方を通じて、馴染みの病院とホームとの交流も図れている。 (外部評価) 馴染みの理美容院、かかりつけ医を利用できるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 併設ホームの利用者と会話したり招いたりして、友人としての関係ができ、気楽に接している姿がみられる。 男性のための男子会(はまゆうの会)があり、交流を図っている。 皆が集まる場面では職員が間に入り、相手が話している内容をわかりやすく気持ちが伝わるよう支援し、孤立しないよう配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方のご家族が運営推進会議に参加して下さったり、困った時の相談に乗っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎月のユニット会で、本人の思いや意向の情報を共有し、実践できるよう努めている。 また、常にあらゆる場面でも本人の思いや意向、表情や行動を確認し、困難な時には実践に向けて本人とすりあわせをして納得できるよう検討している。 (外部評価)	
			2階ユニットでは、車いすを使用する方の割合が多く、利用者の疲れが精神面の不安定につながることもあるため、居室で横になって休む時間を取るようになっている。日中あまりお話ししない方も夜間、利用者は、2~3人になると会話するような場面も見られるようだ。テーブル席に雑誌や新聞、塗り絵等を用意して、ご自分から手に取ることができるような環境づくりに努めておられる。	センター方式の書式を用いてアセスメントすることになっているが、現在取り組みの途中である。耳の聞こえにくい方や口数の少ない方等、関係作りに難しさもあるようだが、個々が満足できるような暮らしを支援を実践していけるよう、利用者個々の情報収集に取り組んでいかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) できる限り本人から聞き取り、また家族からも話を聞き把握に努めてるが、十分にはできていない。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) センター方式24時間シートを参考にしている。 生活リズムや心身状態の把握に努め、過ごし方を本人に決めてもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月モニタリングし、全職員で話し合って、介護計画につなげている。 介護計画は、話し合いに家族に参加していただき、作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画の支援内容に番号を振り、日々の介護記録様式内のチェック欄にて勤務職員が番号に○◎×を付け、毎月モニタリングされている。介護計画は、6ヶ月ごとに見直しをされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 24時間シートや健康チェックシート等により情報を共有し、介護計画につなげている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 福祉用具の導入や看取りを支える家族のために、食事の提供や家族が集える環境を整備した。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 多くのボランティアの来所があったり、保育園や小学校、公民館の行事に参加している。 地元の魚屋、肉屋、八百屋、スーパーに来てもらって、地域の資源の活用にも努めると同時に交流を図っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族の意向に合わせて適切な医療を受けられるよう、家族と協力しながら支援している。 協力医の訪問診療が月2回ある。	
			(外部評価) 事業所では、便秘や微熱等、利用者の小さな変化に気づくことを大事にしたケアに努めておられる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 職場内に看護師がいるため、常に相談し、協力して支援にあたっている。 スタッフは命のかかわらない軽微な体調の変化等から気づきや情報を提供して、適切に受診ができるよう支援している。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時は情報提供し、本人にも安心してもらえるよう、面会に行っている。 退院時はカンファレンスにより、安心してホームに復帰できるよう、家族、医療関係者と連携を取っている。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族や主治医と連携を取りながら、できることできないことを含め、終末期に向けた方針を共有している。 随時家族の意見を確認しながら、ともに支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) ご家族からは、看取り支援のニーズが多く、事業所2階ユニットは、重度化や看取り支援するための場所としている。現在は、車いすを使用する方や食事時の見守りが特に必要な方が多い。居室の並びに「看取りの部屋」が整備されており、ご家族も泊まることのできるよう用意されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 研修やミーティングで説明し、実践につながるよう取り組んでいる。 AEDを設置している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年3回の避難訓練を実施している。 マニュアルによって職員全員が対応できるように問い組んでいる。地区消防団との連携が取れるようになってきた。 (外部評価) 事業所の避難訓練時には、近所の方も参加されている。消防署の方からは、避難時「～から出火です」と言いながら避難することが大事とアドバイスがあった。2階ユニットは、重度の利用者が多いが、居間から出られる非常階段を使用できる方は限られている現状が課題になっている。伊方原発事故発生時には、西予市にあるグループホームを受け入れることが決まっており、次回の運営推進会議に参加するようになっている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の性格を知って、誇りやプライドを傷つけないよう、声かけや対応をしている。 基本的には敬語で対応するが、あまり堅苦しくならないよう配慮し、一人一人に応じた対応をしている。 (外部評価) 毎月の「笑みちゃんカフェ」では、ケーキや和菓子等、数種類の中から好きなものを選んでお茶を楽しむことができるよう取り組まれている。いつもと違う雰囲気を作り、ホッとできるような場所を作りたいと支援に工夫されている。男性利用者と職員で構成する「はまゆう会」を2ヶ月に1回行っており、うどん作り等して男性の出番が作られている。「宇和島に帰りたい」という利用者には、窓から宇和島城を見てもらいながら「ここは宇和島よ」と伝えると「ほうかな」と納得されるようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活全般のことについて、その都度本人に意思確認しており、自己決定できている。 否定的な返答に対しては、その理由を聞くようにもしており、本心を理解するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の意思に沿って対応し、本人のペースで生活できるよう支援しているが、安全面を考慮して時には制限することもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族が洋服を持って来てくれたり、同じ服を着ないよう、おしゃれにできる支援をしている。 ボランティア散髪サービスが毎月あり、おしゃれにカットしたり、毛染めもホームでしたりする。 お化粧している方もいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員が季節感あるメニューを考え、一緒に調理の準備をしている。片づけも率先してされ、全員参加型になっている。 好き嫌いを把握し、無理強いせず、楽しくおいしく食事ができるよう支援している。 その日の体調に合わせて食材の形態や量を検討し、食事が楽しみになるよう支援している。	
			(外部評価) 調査訪問日、魚屋の軽トラックが事業所前まで来てくれた。「給食委員会」での話し合いは、利用者も参加できるように配慮されている。2階ユニットでは、利用者のお一人がエプロンを着けて職員と一緒に調理等されていた。ご家族来訪時にはお誘いして、時には居室で利用者と食事することもあった。畑で採れたサツマイモで芋ごはんを作ったり、おやつを作ったりされていた。利用者の状態によっては色付きのお茶碗にご飯を装い、ご本人が見てごはんを認識しやすいようにしていた。1階ユニットでは食後、利用者個々にご自分の食器を重ね、流し台まで下膳されていた。	職員は「笑みちゃんカフェ」のように、利用者が楽しみに選ぶ機会を増やしたいと話しておられた。利用者個々の食事の習慣や好み等を探る等して、利用者の笑顔や意欲につながるような食事支援に工夫を重ねていかれてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量をチェックしている。必要に合わせ、お茶の時間の回数を増やし、脱水予防に努めている。 夜間には飲みやすい容器を枕元に置き、対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きや義歯洗浄等、口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>トイレでの排泄に努めている。 排泄パターンや本人の習慣等に配慮し、プライバシーに配慮しながら声かけし、誘導している。 できないことを把握して、必要な部分を支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>お孫さんの結婚式に合わせて、医師と相談しながら排便コントロールや体調管理して支援しているケースや、居室に排泄ケア用品を見えるように置くことで、ご自分で交換できるようにしているケースもある。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>水分補給や牛乳やヤクルトを飲むなど、その人に合わせて予防に努めている。 必要に合わせて散歩等の運動もするようにしている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>本人の希望に沿って日中入浴できるようにしている。 入浴の苦手な利用者には、声かけの仕方や時間を工夫して入浴してもらえよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入浴は、朝10時くらいから夕食前くらいまでの間に支援しており、毎日入る方や2日に1回程度は入浴できるよう支援されている。1階ユニットには一般家庭のような浴槽が設置されている。2階には、車いすに座った状態でお湯で温まれる気泡発生装置付きの特殊浴槽が設置されており、ほぼ全員の利用者が使用されている。体に負担があまりかからないことからお風呂が好きになった方もあるようだ。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>湿度や温度、布団の種類に気を付けて、その時々で対応している。 休養は本人の状態に応じて声かけすることもあり、思い思いに必要な休憩がとれている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬の変更やチェックについては情報を共有し、薬の名前や効能を覚えるようにしている。 担当者が一人一人の服薬を調整し、また、飲む時には飲みきるまで確認をして確実に支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 誕生会や行事などで利用者の気分転換や興味のある日を過ごせるよう支援している。散歩や外出も多い。 生け花をしたり、男性利用者には力仕事、大工仕事なども手伝ってもらっており、役割があり、気分転換が図れる支援を心がけている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の気分や状態、天候等に合わせ、いつでも対応している。 神社や自宅、公園や近所の店への買い物等にでかけている。 皆で戸外に出かける機会も多い。	
			(外部評価) 1階ユニットには、比較的介護度が軽い利用者が入居されており、気軽に外に出られる環境でもあるため、庭やデッキ等に出て過ごされているが、2階ユニットは、重度の利用者が多く、職員は、意識して外に出る機会を作るよう努めておられる。松野町のおさかな館や西予市の野村ダムに出かけたり、ドライブや買い物等に出かけることもある。お花の先生をされていた利用者と一緒に花を買いに行き、玄関に生けてもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望者は自分で財布を所持し、買い物等で本人に支払ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯やホームの電話で電話することができる。 郵便物も本人に渡し、必要であれば一緒に開けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 狭いリビングを気持ちよく暮らせるよう、テーブル等の工夫をしている。 ホールやデッキを利用して、広い空間で活動できる工夫をしており、思い思いの場所で過ごすことが多い。</p> <p>(外部評価) 事業所は高台に立地しており、居間からは宇和島城や街並みが眺められ、夏には、みなで花火大会も楽しんでいる。併設グループホームと合同で行う10月の「感謝祭」時には、餅まきが恒例となっており、前日から皆で餅を搗き、丸めて、当日は、一階デッキから投げ、100名近くの方が庭に集まり楽しんでいる。庭は芝生で広く取っており、一角には畑が整備されている。犬や猫が好きな方が多く、近所の方が犬の散歩中に寄ってきてくれて利用者が犬と遊ぶ機会がある。又、飼い猫が利用者や職員の行くところに付いて来て癒してくれているようだ。調査訪問日は、畑に玉ねぎを植えており、職員と一緒に植える方やベンチで座って見学している方もおられた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 外のデッキに日よけ用のパラソルを設置し、気の合う利用者同士が交流を図っている。 ホールのソファに座って、ゆったりされている方もいる。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人らしいもの(鏡台、パッチワークのれん、仏壇、テレビ、椅子、畳、ちゃぶ台等)を揃えられ、自宅の生活空間を続けて暮らすことができている。</p> <p>(外部評価) ご家族が観葉植物を持って来て飾ったり、猫好きな方は、猫ののれんをかけた、猫の写真やおしゃべりするぬいぐるみ等が飾られていた。ベッドに横になると、居室の入口が見え、職員の出入り等が見えて気になる方は、ご自宅から持って来られた板をベッド足元に立てておられた。誕生日には利用者の希望をお聞きし、足湯に行き食事をしたり、お寿司を食べに行かれており、居室の入り口に、その際の写真を貼り、担当職員のメッセージが添えられていた。コタツで、座椅子を使用している利用者の居室は、事業所の椅子を置き、椅子の手すりを支えに立ち上げられるようにしていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 同じようなドアのため、トイレには便所、浴室には温泉マークを付け、わかりやすくしている。 段差も限りなく少なく、玄関には利用者の活けた生花が飾られている。</p>	